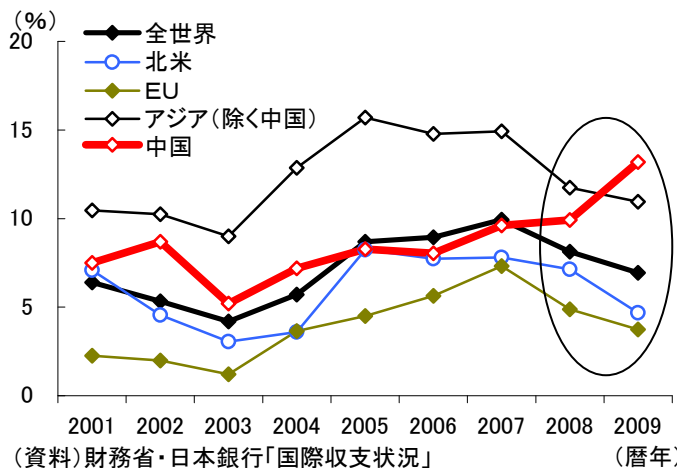


高まる対中直接投資の収益率

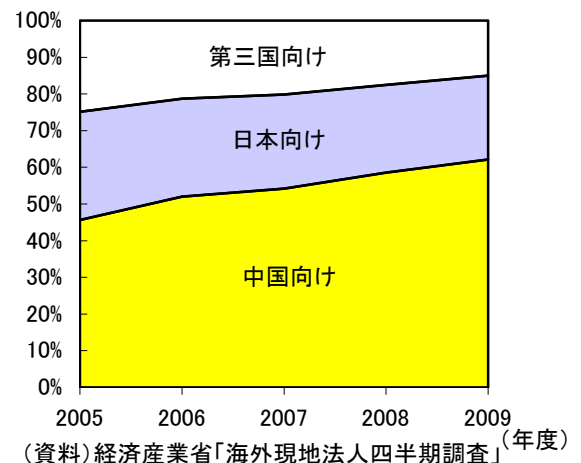
～輸出指向から市場指向型へのシフトが背景に～

- (1) 2009年におけるわが国企業の対外直接投資収益率をみると、主要地域で軒並み低下するなか、中国における直接投資収益率が上昇（図表1）。この背景として、対中直接投資が、輸出指向型から市場指向型へシフトしていることが指摘。
- (2) わが国企業の中国現地法人の売上高に占める中国市場向けの割合は、2005年度の5割未満から、2009年度には6割超へ上昇（図表2）。主要先進国が不況に陥る一方で、中国経済は2009年に約9%の実質成長率を記録するなど、相対的に好調に推移したことから、中国内需を取り込んだ進出企業の売上が拡大した模様。2008年度、2009年度の中国現地法人の売上高は、他の主要地域で落ち込むなか、国内向け売上高の増加を主因に前年比プラスを維持（図表3）。
- (3) 国内市場の成長力低下に直面しているわが国企業にとって、さらなる業績拡大を目指すためには、中国市場成長力の取り込みが課題。もっとも、高収益機会を狙って、中国市場における競争は熾烈。国際協力銀行が2009年夏に実施したアンケート調査では、中国における事業展開の課題として「他社との激しい競争」を挙げた企業が50.3%と、2008年の45.6%から上昇（図表4）。中国からの収益を拡大するためには、競争力の強化、一層の現地ニーズの取り込みが必要。

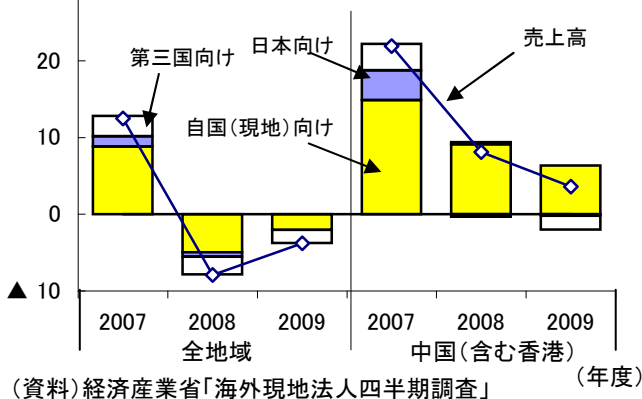
(図表1) 対外直接投資収益率の推移
(直接投資収益<受取>/直接投資残高<前年末>)



(図表2) 中国現地法人売上高シェアの推移



(図表3) 海外現地法人売上高の推移(ドル建、前年比)



(図表4) 中国事業展開の課題と有望理由

